

## 本校職員が京都大学を訪問しました

令和5年11月30日(木)

11月30日(木)に本校の川手校長先生はじめ4名の職員が、京都大学大学院教育学研究科の楠見 孝(くすみ たかし)教授を訪問しました。

この訪問は、本年度7月18日(火)に行った本校職員による東京大学大学院農学生命科学研究科の山本 清龍(やまもと きよたつ)准教授の訪問、10月21日(土)の名古屋大学ホームカミングデーにおける本校職員と生徒の参加に続く、本校生徒のハイレベルな進路希望を叶えることと本校の探究活動を充実させることを目的とした取組です。

秋の日差しが降り注ぎ、大学構内の木々が紅葉している中、楠見教授に面会しました。

楠見教授は津島高校が2025年から中高一貫校になることや、本校が国際バカロレアのカリキュラム導入を目指していることを承知していただいていた。そこで、本校職員から本校の学びのあり方を変えるためにどうしたらよいか、また、探究活動を行う上で大切な問いの立て方について質問したところ、大変丁寧に説明していただきました。

さらに、今後探究活動を中高6年間で充実させるために、どのようなスケジュール感ですすめていけばよいかについても、アドバイスをいただくことができました。

具体的には、大きな探究のテーマは1年で終了ではなく、次の世代に引き継いでいくテーマであってもよいことや、中高一貫校では、年度末に成果発表会を行う学校が多いこと、加えて、保護者の方や地域で活動されている方を巻き込んだ活動にすると良いということなどを教えていただきました。

今後、本校にお越しいただき講演会を行っていただいたり、本校の生徒が長期休業中に京都大学を訪問したりすることもできそうです。

あと1年と少して、本校に国際探究科が開設され、附属中学が開校されます。今年度、大学の先生方からいただいた知見を参考にして、津島高校は生徒のハイレベルな進路の実現とさらなる探究活動の充実を目指してまいります。御期待ください。

